

授業概要

1991年にバブル経済が終焉して以後、日本企業は長い低迷を続けているだけでなく、ますます収益の低迷と国際競争力の低下の深刻化が進んでいる。この過去20年の低迷の背景には、日本と世界の消費市場で受け入れられるだけの成長事業を見だし、その事業に自社の経営資源を「選択と集中」という事業構造の改革が不可欠なのであるにもかかわらず、そのための取り組みを怠ったことがある。この理由をさらに深く掘り下げて考えれば、この構造改革を進めるだけの人材が日本企業に不足していたことに問題があったといえるだろう。本講義では、企業の盛衰はトップ、中間管理職、現場のそれぞれの「人材次第」とであるという認識に基づいて、日本企業でなぜ人材が育たないのか、また優れた人材がいてもそれを経営に活かさないのかを具体的な事例を挙げつつ論じる。

授業計画

第1回	はじめに
第2回	経営は人とは
第3回	日本の経済成長と大衆消費社会
第4回	21世紀の消費市場の性格
第5回	世界経済の構造変化と消費市場
第6回	日本企業を選択と集中(1)
第7回	日本企業を選択と集中(2)
第8回	日本企業を選択と集中(3)
第9回	電気産業の事例(1)
第10回	電気産業の事例(2)
第11回	電気産業の事例(3)
第12回	自動車産業の事例(1)
第13回	自動車産業の事例(2)
第14回	日本企業の人材育成システムのまとめ(1)
第15回	日本企業の人材育成システムのまとめ(2)
第16回	期末試験

到達目標

日本企業が事業構造の改革に成功し、再生することができるかどうかは、かなりの程度において人材の育成にかかっていることは間違いない。しかし、どのような人材が求められているのか、そしてその人材をどうすれば企業経営に活かすことができるかは、業種や職種によって違っている。したがって、多くの企業や産業の事例をみることによって、現在の日本企業において業種・職種毎にどのような人材が必要であることを理解することを目標とする。

履修上の注意

今日の日本企業が直面しているさまざまな困難や問題に関心を持って、その問題が生まれる原因やその克服の施策について自ら積極的に調べることを希望する。

予習復習

授業と関連する新聞記事などに注意深く目を通しておくこと。

評価方法

基本的に学期末テストにより評価するが、部分的に出席も考慮する。

テキスト

テキストは用いない。参考資料として、ウェブに公開された企業の報告書などを用いる。